

第79回 紫友まち歩き

幻の遊園地「兎月園」と

理想教育の場「花岡学院」

… 成増 ～ 光が丘 ～ 下赤塚 …

今年は寒さが厳しく1月22日(月)の夕方から降り始めた久しぶりの東京の大雪が融けることなく残っている寒い日でしたが、天気は晴れでまざまずの“まち歩き日和”でした。今回は、東京都と埼玉県の境をなす「白子川」が造りだした崖線に沿って、板橋区～埼玉県和光市～練馬区光が丘へとアップダウンのあるまち歩きでした。

今西さん紹介の店での新年会も大いに盛り上がり、二次会まで雪崩込みました。

日時：2017年1月27日(土) 13:00～

集合：東武東上線「成増駅」改札口

参加者：13名

案内人：浅見眞一郎

コース：成増駅→川越街道旧道→新田坂石像群・八坂神社→清水かつら生誕地→「靴が鳴る」の歌詞がある白子橋→白子宿→白子川崖線(百段階段)→出世稲荷神社→兎月園跡→妙安寺→花岡学院跡→光が丘公園(成増飛行場跡)---→下赤塚で新年会



東武東上線成増駅集合

寒いので日の当たる南口で待ちました。



成増駅南口交番前にある“清水かつら”の歌詞「叱られて」が流れる“歌の時計塔”



成増駅南口にある“モスバーガー”創業店の前を通って成増銀座を抜けて川越街道へ。



川越街道

東京人は川越街道(川越に行く道)と呼ぶが川越の人は東京街道(東京へ行く道)と呼ぶ。

15世紀に江戸城が築かれた時期に川越と江戸間の古道を繋ぎ合わせたのが起源で、江戸時代に整備が進み川越往還と称された。左上の高い所が“旧道”で白子川に近づくとき急な坂道になる。昭和8年に緩やかに開削された。



八坂神社



道祖神

八坂神社：祭神は素戔鳴尊・稲田比売命で、京都の八坂神社から勧請されたと伝えられ、「天王様」と呼ばれて新田宿の信仰を集めていた。かつては国道254号線の中央に鎮座していたが昭和8年の拡幅工事に伴い旧道側に遷座された。石像群は川越街道の整備に当たって周辺地域にあった石像をここに集めた。



清水かつらの歌碑
がある白子橋



白子川
南：光が丘方向を見る

清水かつらの有名な歌詞には次のものがある。
「みどりのそよ風」「靴が鳴る」「雀のお宿」
「あした」「叱られて」
これらの詩は、弘田龍太郎・中山晋平・草川信らによって今に伝わる名曲となった。



武州白子「熊野神社」

「熊野神社御由緒」：天平宝字2年（758）朝廷は我が国に

渡来した新羅の僧達を武蔵国に移して新羅（志楽木）郷を作った。白子の地名はこの新羅から転訛したものとされており、戦国時代の文書には「白子郷」の名が見える。熊野神社は白子の鎮守様として栄えてきた。発祥は不明であるが社伝によるとおよそ一千年前と言われている。祭神は、伊弉諾命・健甕名方命・はやすきのおのかみ はやたまのおのかみ ことさかのおのかみ うかのみたまのみこと 速須佐男命・速玉男命・事解男命・倉稲魂命とされる。熊野神社がいつの時代にこの地に祀られたかは想像の域を出ないが、熊野信仰の本拠である紀伊国那智山に伝わる那智中世文書の中にある天文年間（1532～54）頃の「武蔵国檀那書立」の中に「しらこ庄」と言う記述があり、当時の白子ではかなり熊野信仰の布教が進んでいたと推測される。



白子川崖線に立地



白子宿「魚くめ」



旧川越街道沿いの旧家

白子宿の起りは小田原北条氏が白子に新宿を立てたときに始まる。江戸時代になると、川越藩主の参勤交代と将軍家の川越仙波東照宮参詣で繁盛した。小林一茶などの旅人の休憩所にもなった。熊野神社から引いた豊富な湧き水が使われたと言う。



本田技研研究所の発祥の地



百段階段

白子川の和光市側は浸食作用により急勾配の断崖が出来上がった。高低差は約 20m となっている。地域の人々は“百段階段”と称して通勤通学その他日常生活に利用している。我々は、誰も登ってはみなかった。

白子川は石神井公園付近を水源とし練馬区～和光市～板橋区を通して新河岸川に注ぐ。



光が丘公園北の水源地「お玉が池」から白子川へ注ぐ水路が“暗渠”になった路地
何の変哲もない民家の狭間で、日当たりが悪いせいか先日の雪はたっぷり残っている。



出世稲荷神社

創建年代は不詳だが地域の古文書に享和 4 年(1804)に「稲荷社長さ 2 間横 8 尺」とある。川越藩主が参勤交代の折に出世祈願を掛け、松平信綱や柳沢吉保の様な老中・大老に出世したところから評判になった。



出征稲荷神社社殿（昭和 43 年）

本日の案内人：浅見さんのお住まいはこの社殿の真裏にあります。となると、参拝すると浅見さん家を

拝むことになるのかな？



立派な狛犬

境内には狐形の狛犬もあるが、裏参道には大きな獅子形の狛犬がある。これは「兎月園」の敷地内の神社に置かれていたもので、地域の歴史を物語っている。



出世稲荷神社の隣にある花岡家の住宅

奥の母屋は元病院であった。手前のモダンな住宅は坂倉建築研究所の設計になるものである。



この辺りは付近で最も低地で、兎月園の池であった。浅見さんの説明を聞く。



石垣の玉石は練馬大根の沢庵石を積んだ

兎月園跡は、全くの住宅地で雰囲気も残っていない。緩い坂が前後左右から降りている所がボート池だったと言われて、なるほどと思った。

《兎月園》兎月園は大正13年頃から昭和18年頃まで、現在の練馬区旭町三丁目に存在した遊園地である。大正10年頃、貿易商花岡知爾（ともちか）が都内の上流階級を対象に会員制の高級農園「成増農園」を開設したのが始まりである。園内には来園した会員のための飲食施設を用意してあった。花岡知爾は仕事柄経済界と知己もあり、懇意にしていた東武鉄道社長の根津嘉一郎の東上線の顧客開拓方針に協力することで遊園地創設に乗り出した。12,000坪の土地を確保し、当初は子供を対象とした一般の遊園地の様に動物舎や遊具・運動場を備えて運営していたが、昭和15年豊島園の開業にあたり両園での調整の結果、兎月園は富裕層の大人を対象とした施設に移行していった。行楽と料亭・割烹旅館的な要素として、園内には本館の他、教寄屋造りの離れ数棟（12棟）・温泉・人工滝・ボート池があったという。来訪者には皇族・政財界の重鎮・東条英機首相他の軍人・文化人等の名が記録されている。ボート池は現在の光が丘公園北口付近に存在していた湧水池「お玉が池」から白子川に向かう細流（現在暗渠）を利用したものであった。その後戦時色の高まりと共に維持が困難となり、国策会社の明電舎に譲り渡すことになり廃園した。園内の施設のうち、勝海舟邸から移設した長屋門は三宝寺に、狛犬は出世稲荷神社に、藤棚は練馬東小学校にと移設された。また「錦麗の滝」の石碑は根津美術館（青山）に移った。



練馬区立旭町北地区区民館でトイレ休憩



長久山妙安寺：日蓮宗

開基は板倉伊賀守勝重：寛永元年（1624）没、開山は駿河三松蓮永寺日雄上人：元和元年（1615）没。現在の本堂は明治 33 年（1900）に再建された。山号「長久山」は徳川家の武運長久を祈願して名付けた。

広大な寺域を有し、この辺の大地主である。



妙安寺本堂前で集合写真



梅が芽吹く：綺麗



向山通り午房口角にある「加登屋（かどや）」
ここから光が丘公園に続く道状公園に入る。



道状公園は緩い昇りになっている。雪が残っているので迂回するかどうか相談。



でもこの道状公園が「花岡学院跡」なので、足元注意で進むことにする。

花岡学院跡は、一部平坦な土地（校舎跡）があると言われてみなければ判らない。

池は“蜻蛉池”として残っている。

《花岡学院》神田区で開業医をしていた医師花岡和雄は「虚弱児童が健康の回復を図りながら小学校教育を受ける」保養と教育の目的で大正 15 年この地に学校を開いた。

私立の養護学校としては日本最初であった。当初は生徒も集まらず長女一人だけだったが、日曜学校・林間学校（夏休み）などで利用者を広げ、卒業生が一流校に進学したこともあり次第に評判が上がり 20 名を超える状況になったと言う。指導理念はペスタロッチ教育であり、のんびり・のびのびと自由な発想の教育で通信簿も無かったと言う。指導には和雄の息子 3 名もかわりを持ち、更に近くに住む童謡詩人の清水かつらも参加した。6,000 坪の敷地には、本校舎・プール・日光浴室・藤棚・寄宿舎そして校舎周辺の起伏に富んだ一帯には、子供達が名付けた“ささやきの小径”“スタコラ山”“甕の芝生”“鷺の池”等があった。しかし戦時色が強くなる中、個人での学校経営が困難となり神田区に施設全般を寄付し、昭和 18 年「武蔵健児学園」として出発したが、終戦と共に閉鎖された。その跡地は米軍のグラントハイツの汚水処理施設等に使用され当時の面影は無くなった。グラントハイツが返還され光が丘公園になった際、この地も光が丘公園の一部となったが、道状敷地が曲がりくねって午房口に至っているので「光が丘公園の臍の緒」などと言われている。

☆花岡学院の創立者：医師**花岡和雄**と兎月園の創立者：貿易商**花岡知爾**は兄弟で、その祖父に当る花岡良平（＝華岡鹿城：漢方医）は、あの世界で初めて全身麻酔による乳癌手術に成功した**華岡青洲**の弟です。花岡家が医者として残っているのも頷けます。

除雪されてなく自然に融けたり踏み固められた所を注意深く辿りました。



雪の光が丘公園“芝生広場”



赤塚口に続く桜並木道も雪が残る
《都立光が丘公園》 陸軍成増飛行場から
グラントハイツへ、そして光が丘公園に！

★成増飛行場 昭和 17 年東京・名古屋が爆撃を受け首都防空が急務となり大泉大緑地計画の一部であったこの地が飛行場に選定された。昭和 18 年 6 月に用地買収（昔は田柄田圃と言われていた）が開始され年末には離着陸可能となったと言うからかなりの突貫工事だった。ここから飛び立った機はあるものの実戦で役に立ったかは不明である。

★グラントハイツ 終戦と共に米軍に接收され昭和 22 年に 1,200 世帯の米軍家族宿舎が建設された。“グラント”とは第 18 代大統領ユリシーズ・グラント（南軍のロバート・リー将軍を破った北軍の将軍）の名前に因んでいる。ここには東武東上線からの支線「啓志線」が引き込まれていた。“啓志”も当時の建設司令官ヒュー・ケーシー少将の名に因んでいる。先程の芝生広場は飛行場時代の滑走路であり、グラントハイツ時代はゴルフ場であった。

★光が丘公園 昭和 34 年から徐々に接收解除となり昭和 48 年全面返還となった。返還後、住宅団地（日本住宅公団・東京都住宅供給公社・都営住宅＝14,000 戸）が建設されたが、練馬区側は北側（成増側）に住宅・南側に公園を望んだが、北側の一部を所管する板橋区の意向で北側が公園、南側が住宅となった。この光が丘団地は、清掃工場・商業施設・体育館・図書館・病院・野球場・400mトラック・ランニングロード・サイクリングロード・バードサンクチュアリー等が整備され、日比谷公園の 4 倍の大公園に隣接する大団地となった。完成時には 4 万人が住んだ。今回参加の今西氏・荻原氏もこの光が丘団地に居住している。この光が丘公園は「野鳥の宝庫」と言われバードウォッチ

ングが盛んであるし、お祭り（よさこいソーランは盛況）や催し物（マラソン等）も盛んである。今では、都営地下鉄大江戸線のターミナル駅「光が丘駅」が便利である。光が丘駅から南に一直線に延びる道路の両脇には大きな銀杏が植わっているが、この銀杏は有楽町にあった旧都庁の周りにあった銀杏を移植したものである。

なお、光が丘公園は30万人の広域避難地区になっており、野球場の地下は巨大な上水の貯水設備があり、バーベキューヤードは非常時の炊事施設でもある。



(参考：光が丘公園芝生広場の桜)



(参考：紅葉の銀杏通り)



(参考：雪の銀杏通り)

光が丘公園を抜け赤塚方面に歩く途中にバードウォッチングの大きな看板があり、ここで見られる野鳥

が掲示されていた。ここでバードウォッチングを経験している今西さんから話を聞きました。

また、途中にあちこちバリケードで囲った箇所があり地面が陥没しており、“ボックスカルバート跡処理工事中”の看板があった。この光が丘公園・団地エリア全体には既に役目を終えたボックスカルバート（暗渠）が巡らされており、林の中を散歩する人が突然落ち込む事故が起こっており、東京都が陥没部の処理工事を行っている次第である。

荻原さんはこの光が丘団地で超高層マンションの工事を担当しており、その掘削工事中にもボックスカルバートを掘り当てたと話をしてくれました。公園を北東に抜けるとそこは光が丘団地で最初に建設された「ゆりの木団地」に入ります。このゆりの木団地は練馬区と板橋区に跨っており、練馬区の小学校と板橋区の小学校がすぐ近くにあたり、団地の同じ棟なのに右と左で区が違う住棟があったりと奇妙なところを、ここに住む今西さんが面白く話をしてくれました。

下赤塚近くの居酒屋「のぼる」で“新年会を兼ねた懇親会”を行いました。この店も今西さんの紹介になるものです。例によって大いに盛り上がりました。





東武東上線「下赤塚」で解散。

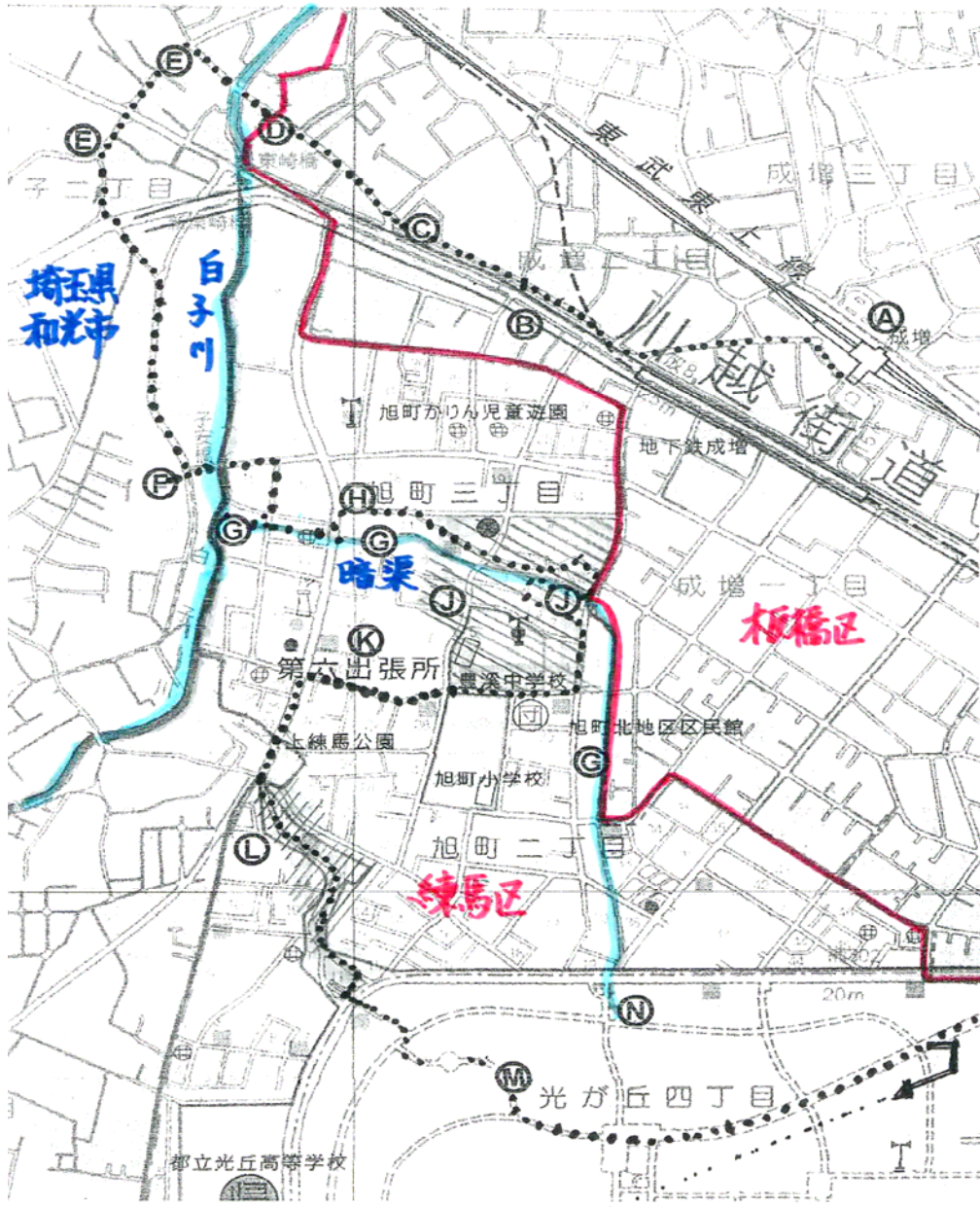


■ 妙安寺で集合写真



■ 光が丘公園と光が丘団地。上方が北。 左上に成増駅、右上が ゆりの木団地

まち歩き 成増地区 兎月園と花岡学院を訪ねる



- A 成増駅
- B 川越街道
- C 石像群・八坂神社
- D 清水かつら住宅跡
- E 白子宿
- F 百段階段 白子川
子安橋
- G 暗渠
(お玉が池-白子川)
- H 出世稲荷神社
- J 兎月園跡
- K 妙安寺
- L 花岡学院跡
- M 光が丘公園
旧成増飛行場跡
- N お玉が池